

和歌爛漫

多田龍介

◆ 目次

翻訳こんにやくの行方	6
和歌爛漫	8
歪んだ関係	10
&ナッツ	12
迷い道	14
ハラヘッタ	16
普通	18

入院観測	21
君ならどうする？	22
退院し	24
知性派	26
失敗の効用	28
覆水盆に	30
おしごと	32
あとがき	35



翻訳こんにゃくの行方

どこへ出しても恥ずかしい
君たちのツイートが
誰にでも読まれてしまう
だと？

いいでしょう

異人さん

これからあなたの読むものが
面白いかもしれません
つまらないかもしれません
思考回路が違うのです
それが異文化です

そしてこれは
中から見れば

うんざりするような
低能さなのです

逆もまたしかりか？

しかしアルファベットはいい

横文字などを見るとぞくぞくする

という具合に

好いてくれたらお慰み

和歌爛漫

人生に意味はある

意味は人間が与えるものだから

あると思えばある

ないと思えばない

そんな禅問答みたいなこと

言われてもらっちゃ困るんだよ

本当に意味がないと思っっていたら

文字が読めない

うむ

サルトルの『嘔吐』がある

あれは遠い異国の地で

世界を把握することに挫折ざせつしたのだと

異国の地でなくとも挫折しそうな
昨今

歪んだ関係

いかなイケメンに告白されたからとて
女に拒否権がないのはおかしい
どうだろうか

しかり、しかり

拒否権あったろうが

断ってくれていいのよお？

断れない関係が、あった

精神病院

通院は半強制

拒否すれば入院

そんな関係が、あつたんだ

& ナッツ

入院している

こういふときスマホが使えないお年寄りならば
やることなく困ってしまうかもしれないが
幸い、私はスマホが使えるので

余暇を有効にやり過ごすことができる

と、SNSを見ると

相変わらずバカである

僕の状態なぞ

世間は知らないか、気にしないらしい

たぶん世界が終わるまでこんな調子だろうし

世はすべて事もなしじゃないですか

じゃ、まいっか

とため息をつくのだった



迷い道

こういう場合

傍^{はた}の意見が正しいのである

何か問題があつたんでしよう

と、いうことの内訳を

省いて午後

ああ、その辺の層の人たちを

軒並み傷つけただろうな、と思う

まあ、奴らが売ってきたケンカだ

どうでもよし

とも言えないほどの

膾^{なますぎ}斬り

今日からは

もう誰も傷つけないように

能無しなの治らなくても？

治らなくても

ハラヘッタ

アイドルのコンサートに行きファンの言う
ホンマにおるんやあ

ここで僕、思う

ホンマにおるんやあは

誰でも作れると

ここにニートのおる

目も鼻も口もある

今までよくできた人形かと思っていたが

どうれ、見せて進ぜよう

と、入院して思うのは

大丈夫な人と大じよばない人が

いるということなのだ

大じよばない人からは
冥府^{めいふ}の香りが漂うこととなり
これがまた陰々滅々
こうなればなるべく早く
家族に返したほうがいいだろう

ああ、普通の暮らしが
こうもねつとりと濃厚に
羨んで見えるとは

普通

幸せな家庭

嘘くせ

嘘なわけあるかい

良妻賢母

嘘くせ

嘘なわけあるかい

生命の瀬戸際に

全て暴かれることだろう

嘘なわけあるかい

大体そう簡単に

生命の瀬戸際にしてもらっちゃ

困るんだよ

悪態のなかにも愛があり
日に照らされる洗濯物にも幸せがあり
いいかもしれないね！



入院観測

個室には宇宙が宿る、取り込み中

わからない、そうでしょうこれ他人なら

礼を欠き令和の夜にうちやる世

虚か実か、いずれも付き合いきれない跋^{ばつ}

僕ならば色に溺れる夢を見て

君ならどうする？

悪い流れになると何やつてもダメねえ
そうねえ

なんで悪い流れになったかつて？
犯人は、この中にいる

それだけ言えば十分だった
世界は不穏な場所に成り果てた

傷つけるためだけに書いた言葉なら
力を持つことはないよ

リスパダールが切れまして
私、虚しゅうなりまして

リスパダラリラタラリラトウツトウル
私、虚しゅうなりまして

食ったり食われて、大差ない
すべては、許されている

か、どうかは知らないが
私、虚しゅうなりまして

退院し

大きな物語は描けないという
何を言ってるんだ
再臨の最中じゃないか

そういったことではないという
惨めなのは治らなかった

なるほど、惨めであつた

傲慢ごうまんに振舞うことが

結局は自分のためにならないと

いい年にもなれば

気づいていそうなものだが

気づかずに、晩夏

外国人とは話せないという

何を言ってるんだ

もうずっと

かーちゃん以外と話してないじゃないか

とーちゃんと話したく

病院へ行ったよ

とーちゃんはいなかったけど

とーちゃんが見たもの

少しわかったよ

知性派

頑張ったら報われる世の中ではないとまずい
少なくともそう信じてもらっていないと
善人がいじめられぬく世の中になれば
悪人になるを推奨しているも同然で
実際、今は詐欺師の楽園であるが
頑張ったら報われる自体が神話
そうか、ならもう頑張らない
かといって悪にも与^{くみ}しない
欲しいものは正しい観察
歴史に照らし合わせて
文化大革命を見ても
疾風怒濤^{どとう}を見ても
キリスト教でも
何でもいいよ
参考文献を

与えてよ
僕だけ
見え
て

失敗の効用

なんだろうな

安心すると荒らしちゃうんじゃないか
やわ肌にむしゃぶりつくような感覚で
なんと迷惑な

彼女は女神ではなく

俺は豚だった

そんなことに

ならなければいいが

誰であれ

感情的な修練は

多くの失敗を必要とするものなのだ

失敗したら

死あるのみ

のプレッシャーに耐えかねて

アル飲みの結果は

うゝん、このパイ質

自分から失敗しに行かないでくださいっ

覆水盆に

私はいかがですかつて、言う？ 女
なんか召しませとか言ってた頃の
弊害じゃないかな

僕はいかがですかつて、言った、男
誰も食べてくれなかったけど
むしろ食べられたかった
準備万端にしていたものを

君はねえ

何も持たない頃の僕を
この男には見込み無しと
袖にしたんだよ

それを今さら真実の愛とか

必ず叶えるとか抜かす

思ったより大きくなったので
小さくても

認めてほしかったですねえ

おしごと

自分が若いころのこと考えても

自分の頭で考えてたかどうか

とても怪しい。てか頭ない

崇拜する人の意見を聞き

従うばかりだ。せめて

崇拜する人は選ぼう

その点、よかった

作家センスいい

ひれ伏す相手

選びたいね

僕にする

それも

勇気

ね



あとがき

この小冊子は二〇二六年三月終わりから五月中ごろにかけてネットに投稿した詩をまとめて作った。十四編。

この間、一か月ほど大腸炎で入院していた。入院している間もスマホから時々詩を作り、投稿していたのだ。ゆっくり休んでいればよかろうにと思われるかもしれないが、入院していると暇で暇でしょうがないのである。けなげにスマホから細かい文字を打ち、クオリティは兎も角としてこれだけの詩作を。悲しい。本当に具合が悪かったら、こうも行かなかっただろうけれど、幸い、無事に退院してこられた。

生活を改めようと思ったが、のど元過ぎればまた怠惰に流れそうになっている。旅の記録として、小冊子にしておこうというわけだった。家族のことを考えれば、僕が倒れるわけにはいかない。と思えども、難しいものである。

それでは、読んでくださってありがとう。また。

二〇二六年六月二十一日 多田龍介

和歌爛漫



令和八年六月二十二日 初版発行

著 者 多田 龍介

発行者 多田 龍介

発行所 明水工房